

けがや病気で低下した運動機能の回復を支える理学療法士。近年は、心臓病や腎臓病などの再発予防、機能回復で重要な役割を担うほか、新型コロナウイルス感染患者のリハビリテーション（リハビリ）が注目されるなど、活躍の場を大きく広げている。7月17日は、日本理学療法士協会（東

京）の設立を記念した「理学療法の日」。理学療法士の役割や兵庫の現状について、兵庫県理学療法士会の間瀬教史会長に聞くとともに、理学療法最前線の現場として、急性期から在宅まで「切れ目のないリハビリ医療」に取り組む、神戸市立医療センター中央市民病院を訪ねた。

## きょう7月17日は「理学療法の日」

術後患者（右）の「心臓リハビリ」の様子。理学療法士の適切なサポートで、早期の体力回復と社会復帰が期待できる＝神戸市中央区、神戸市立医療センター中央市民病院

神戸市立医療センター中央市民病院  
リハビリテーション技術部主査  
理学療法士

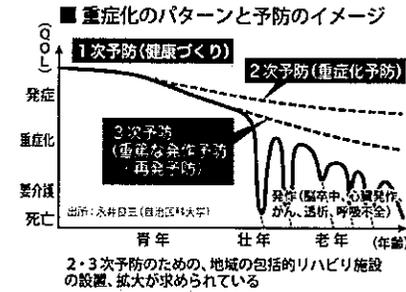
リハビリはかつて脳卒中や整形外科が中心だったのが、近年は循環器系（心臓）や腎臓など、呼吸器系の占める割合が増え、理学療法士の守備範囲は大きく広がりました。現在、健康増進や介護予防の見地からも理学療法が重要という考えが広く浸透しています。高齢者でいえば、加齢などが原因で筋肉量が減少したり、筋力が低下したりするサルコペニアや、フレイル（虚弱）が予後に悪影響を及ぼすことが知られており、適切なリハビリを行うことで、それを予防し、元の状態に戻することも期待できます。



岩田 健太郎氏

## 高齢者の社会復帰視野に

# 健康寿命の延伸に貢献



医療の進歩に伴い、脳卒中やがんなど、あらゆる疾患の死亡率が低下する一方で、複数の病気がかかるマルチモルビディティ(多疾患併存)の問題が指摘されています。リハビリの際にもいろいろな臓器への影響を配慮しながら行うことが求められます。

## 地域包括ケアシステム構築へ

この取り組みに当学生会としても積極的に関与し、心臓・呼吸器・腎臓・肝臓などの内部臓器を抱えても、リハビリを通してQOL(生活の質)の向上を図り、さらには健康寿命の延伸に資する活動を行ってきたいと考えています。

たえ心不全を起して入院した場合でも、退院後にリハビリを続ければ、ADL(日常生活動作)の改善が図れます。再入院を繰り返す病状を悪化させないためにもリハビリは重要です。

加えて、超高齢社会を迎え、今後はわが国のリハビリでは「高齢者が社会復帰を目指す」という視点が必要だと思っています。いま、高齢者が住み慣れた地域で安心安全に暮らしていくため「地域包括ケアシステム」を構築することが急務となっています。

今年1月、神戸在宅医療・介護推進財団と神戸市を中心とした多くの団体により、急性期から回復期、生活期(在宅)に至るまで一貫してリハビリを提供する「神戸地域一体化リハビリテーションセンター」が設立されました。兵庫県理学療法士会を含め、医師会・薬剤師会・看護協会などの関係者が、オール神戸で取り組む、循環器や呼吸器系障害患者などの増加にも対応する強力な組織づくりが進められています。

今年1月、神戸在宅医療・介護推進財団と神戸市を中心とした多くの団体により、急性期から回復期、生活期(在宅)に至るまで一貫してリハビリを提供する「神戸地域一体化リハビリテーションセンター」が設立されました。兵庫県理学療法士会を含め、医師会・薬剤師会・看護協会などの関係者が、オール神戸で取り組む、循環器や呼吸器系障害患者などの増加にも対応する強力な組織づくりが進められています。

兵庫県理学療法士会会長

間瀬 教史氏



「理学療法士の役割は、事故による骨折や脳梗塞などの病気を加齢で歩く、座る、立ち上がるなど生活の基本動作ができなくなつた人の機能を回復させるほか近年リハビリを通して、心臓や肺、腎臓の病気の再発を予防する、運動機能の維持が大切な仕事になっていきます。医療費抑制の観点からも重要視されている分野です。」

「資格を取るには、養成課程のある四年制大学、四年制または三年制の専門学校、三年制の短期大学を卒業すると、国家試験の受験資格が得られ、合格すると理学療法士になれる。今年は全国で約1万2700人が受験し、約1万1000人が合格しました。1仕事の内容は、医療機関で担当する急性期の理学療法では、一人一

「資格を取るには、養成課程のある四年制大学、四年制または三年制の専門学校、三年制の短期大学を卒業すると、国家試験の受験資格が得られ、合格すると理学療法士になれる。今年は全国で約1万2700人が受験し、約1万1000人が合格しました。1仕事の内容は、医療機関で担当する急性期の理学療法では、一人一

## 運動機能の維持を重要視

## コロナ患者 リハビリで著しく回復

新型コロナウイルス感染患者に対しては、重症者への入院中から退院後の訪問リハビリまで継続的な理学療法でめざましい回復が見られたケースがありました。さらに終末期の緩和ケア領域のリハビリなど、仕事の内容は多岐にわたっています。

人に合った運動量と方法を定めるため高度な医療知識が求められる。退院時には在宅の介護・医療サービスや福祉用具の提供など、各自に適したケアをコーディネートするほか、その後の調整を含めて理学療法士がかかわります。介護の日常生活動作の維持・改善を図るため指導を行っています。



商業施設で行われた介護予防推進の「筋肉・体脂肪測定会」＝伊丹市池尻4